

## 森林技術教育に関するロッテンブルク大学校との懇談会（Jafee 企画）

Discussion about forest engineering education with Rottenburg university (Jafee project)

林野庁では、森林・林業再生プランの具体化の中で、現場ならびに管理に関わる人材育成を進めており、とりわけ地域の森林・林業の姿を指し示すフォレスターの育成に取り組んでいる。日本の大学における技術者教育において、このようなフォレスターの育成に関わるのかを考える必要がある。このたびドイツのバーデンビッテンブルク州においてフォレスター養成を行っているロッテンブルク大学の学長ならびに教授が来日されていることから、下記のような日本の教育関係者、技術者のメンバーとの懇談会を開催することとしました。

○日 時 : 平成 24 年 3 月 7 日 午前 10 時 40～12 時 40 分（

○講 演 1 時間

: Prof. Bastian Kaiser:

Forest Education systems in Germany

「ドイツにおける森林技術者教育システム」

: Ph.D. Sebastian Hein:

Forest education at Rottenburg university

「ロッテンブルク大学の森林教育」

○意見交換 1 時間（座長：北海道大学 柿澤教授）

○場 所 : 鹿児島大学東京リエゾンオフィス（田町駅前 東工大附属高校横）  
リエゾンコーナー 501A, 501B

○主 催 : 森林・自然環境技術教育会（JAFEE）

一般社団法人 森林・自然環境技術者教育会（JAFEE）

102-0085 東京都千代田区六番町 7 番地 日林協会館内

TEL 03-6737-1231

◆ 講演者 **ハスティアン・カイザー教授 (Prof. Dr. Bastian Kaiser) ※学長**



- ロッテンブルク大学学長
- フランクフルト出身 1964年4月2日生まれ
- 国籍：ドイツ
- 専門：森林エンジニア、木材産業ビジネス、マーケティング等
- 学位：博士、1993年、フライブルク大学（ドイツ）、環境経済学について研究（森林の非市場影響の評価）
- 主たる職歴：
  - 1994-1999 フリードリッヒナウマン財団などで、ラテンアメリカ諸国を対象としたコンサルタント
  - 1998- ロッテンブルグ大学教授
  - 2001- ロッテンブルグ大学学長
  - 2002- バーデンヴュルテンベルク州農林省顧問
  - 2009- バーデンヴュルテンベルク州専門大学校学長会議理事

◆ 講演者 **セバスティアン・ハイン教授 (Prof. Dr. Sebastian Hein)**



- ロッテンブルク大学造林学教授
- ミルテンベルグ出身 1969年8月21日生まれ
- 国籍：ドイツ
- 専門・研究内容：造林、森林成長、森林動態と気候変動、気候変動下の針葉樹の成長モデルと材質
- 担当授業：造林学1・II、樹木学
- 学位：博士、2003年、フライブルク大学森林環境学部
- 主たる職歴：
  - 1995-1997 バイエルン州森林局研修生
  - 1997-2003 フライブルク大学森林成長研究所助手
  - 2003-2008 バーデンヴュルテンベルグ州森林研究所助手
  - 2008- ロッテンブルク大学造林学教授

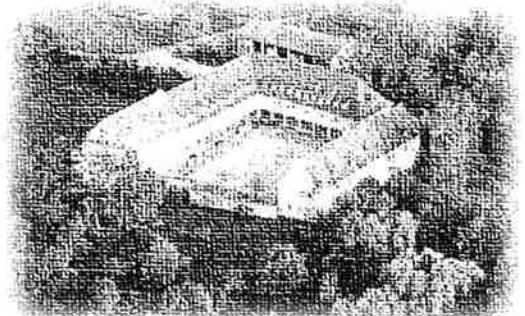
# 森林・林業技術者の育成について

ドイツ・ロッテンブルク大学 カイザー学長、ハイン教授等との意見交換会

## ドイツ・ロッテンブルク大学の紹介

### ◆ ロッテンブルク大学（基礎情報）

- ✓ ロッテンブルク大学は、南ドイツ、バーデンビュルテンベルグ州の都市ロッテンブルクにある公立の林業大学。1990年までは州の森林行政直属の教育機関だったが、1990年以降、州の教育担当部門（学術省）へ移管され、現在に至る。
- ✓ ドイツでは、大学は総合大学(Universität)と専門大学校(Fachhochschule)の大きく2つのタイプに分かれるが、ロッテンブルク大学は後者の専門大学校(Fachhochschule)に分類される。
- ✓ 職員数ならびに学生数については、2011年現在、教授22人、助手5+12(外部資金)人、外部講師40人、学生680人が在籍。就職に関しては、州政府の森林関係が3割、森林以外の職が5割程度。
- ✓ 大学の特徴としては、規模は比較的小さいものの、応用学問や応用研究を重視し、かつ、実践的かつ専門的な職業教育、フィールドレベルの森林官育成が行われている点が挙げられる。



### ◆ ロッテンブルク大学（林学教育）

- ✓ 卒業試験が第1国家試験の位置づけとなっている。卒業後、公務員になるために1年間の研修を受け、その後国家試験（上級森林官の場合2年間の研修）を受験する手順となっている。
- ✓ 教育プログラムについては、入学前、6か月間の職業研修が必須。また、実習を重視し、理論と応用をセットで履修するプログラムとなっている。演習林（市有林）が隣接しており、少人数での実習が行われている。
- ✓ 造林学卒業試験の課題は、将来木の選定、障害木の選定、材積測定、伐採・搬出コストの算出、以上の理論的根拠の説明を行うことになっている。ただし、将来木施業への批判もあるため、他の施業法についての教育も行われている。しかし原則として、非皆伐施業・多層林への誘導を行っている。現場で使える技術、地域共有の技術を習得することが狙いとされている。

#### 《参考：カリキュラム》

- 1年次 基礎
    - ：樹木学・造林学基礎      ：動物・野生生物学、景観生態・岩石・気象学、地図・森林計測
    - ：データ処理・統計、森林技術      ：森林保護
    - ：基礎法学、外国語、経済学、木材工学
  - 2年次 専門・必須
    - ：造林学      ：財政・会計・労働法      ：自然環境保全・計画、木材利用
    - ：森林施業・技術      ：土壌生態、伐採計画・作業管理      野生動物管理、経済学（コスト・投資）
    - ：データベース管理      ：森林保護
  - 3年次前期
    - ：インターン
  - 3年次後期 - 4年次前期 ※コースに分かれる
- 共通
- ：卒業論文      ：造林、環境教育、企業・市民法
- 林業と地方自治体
- ：自治体管理・森林政策、林業の最適化、樹木医、道路建設・生物工学

（参考資料）・「ドイツの林業技術者教育について -ロッテンブルク大学の教育を中心に-」  
柿澤宏昭氏（北海道大学・教授）講演資料